

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0871900296		
法人名	社会福祉法人 博慈会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家	ユニット名	( 1号館 )
所在地	茨城県牛久市女化町252-6		
自己評価作成日	令和 2年 4月 27日	評価結果市町村受理日	令和 2年 7月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0871900296-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0871900296-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和2年6月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者と一緒に畑で野菜を作ったり、年2回幼稚園の園児と交流の機会を設けたり、母体の特別養護老人ホームと納涼祭を開催したり、1年を通じて、ご利用者に楽しんで頂ける行事を行っています。  
理念にある「ご利用者が、自分らしくのびのびと持てる能力を発揮して、生きがいと自信を感じながら笑顔あふれる生活を送れるよう支援します。」を実現するため、ご利用者が今、一番どんなケアが必要なのかを職員皆で考え、実践しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者が日々楽しんで生活してもらえるように、利用者の希望を聞きながら理念に沿った介護や行事についても積極的に取り組んでいる。  
毎月、職員会議では、ケース検討や研修等を行う以外に会議の前に、職員の意見を聞くために色々なテーマを施設長や管理者から職員にアンケートをとり、集計したものを話し合い、業務に反映させている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で考えた理念を掲げている。玄関や職員デスクに掲示して、毎日目にして意識づけし、職員によって方法は違うが、実践に繋げることが出来ている。	管理者と職員でわかりやすい理念を作成し、玄関とステーションの職員デスクに掲示している。ケース検討の際に、理念に沿ったケアになっているか管理者が確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には難しいが、散歩や買物で地域に触れ合ったり、幼稚園児との交流、納涼祭などの行事、芸能ボランティアなどで地域の方々と交流が出来る機会を作っている。	年2回、幼稚園児との交流(じゃがいも堀りとお遊戯)があるほか、訪問看護師の実習生や中学生の職場体験を受け入れている。地域の祭りにも招待され、利用者は職員と一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	博慈園だよりにて、認知症ケアのコツなどを広くお知らせしたり、ご家族の相談に応じたり、実習生や中学生の職場体験を受け入れたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の状況、介護事故、日々のご利用者の活動の様子などを報告し、ご意見を頂いている。	地域住民等も参加して定期的に開催されている。委員からの意見で、避難訓練に地域の方が来てくれた時は、職員との区別がつくように介護中の札を首からぶらさげてもらい、実際の避難訓練の際も実践することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指定基準や加算に係る事柄、困難事例等について、市の高齢福祉課や包括支援センター等に相談し、健全な運営に取り組んでいる。 高齢福祉課の方には、運営推進会議にもご参加頂いている。	介護保険更新申請時や法改正時など、市の高齢福祉課や包括支援センターなどに出向き、実情を伝えながら人員配置のやりくりや困難事例などの相談をして助言を受けるなど日頃から連携を図りながら協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、研鑽している。対象となる具体的な行為を行っていない。 無断外出による戸外での事故を防ぐため、基本的に玄関は施錠しているが、職員がご利用者の行動を把握できる範囲で、解放している。	玄関に身体拘束廃止の宣言を掲示している。法人として身体拘束を行わない方針であるが、必要と思われる利用者については職員で対応方法を検討し、対応方法を工夫している。身体拘束排除委員会設置(特養と合同開催)を3カ月に一度開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員休憩室に、高齢者虐待防止法に関するポスターを掲示し、意識し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にそれらを利用しているご利用者がおられ、実践しながら学ぶことが出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書にそって、丁寧に説明し、ご利用者やご家族の疑問を解消し、ご納得頂きながら契約を結んでいる。改定時には、文書で明示し、その都度改定の同意書を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡などの際に、ご家族のご意見や希望を伺う事がある。ご利用者の希望等も、ケース記録や連絡帳等で職員が共有し、実現出来るよう努めている。	面会時には必ず声をかけを行い、意見や要望、困りごとはないかなど聴くように努めている。誰にも見られず意見を書いて入れられるように、玄関外に意見箱を設置している。家族等から出た意見には迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やアンケートを用いて、意見を聞き、運営に反映している。	日常的に、事業所内の機器の修理依頼や購入など、希望がある際には、管理者はすぐに対応しているほか、今年は感染症による「納涼祭」の中止からグループホーム職員と利用者だけで行う「虹の家祭り」に変更して利用者を楽しませてあげたいとの意見を受け、開催する予定になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課による職員の実績、能力の評価、処遇改善交付金を活用した賃金の改善、資格取得支援制度(受講料の補助等)をしており、職員が意欲を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的実施されている施設内研修や外部研修を活用し、本人の希望や身につけてもらいたいスキルの研修を勧めたりして、スキルアップが出来るよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会による研修等に参加し、同業者と交流している。 相互訪問等は行ってない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	予めご家族等から生活歴や現在の生活様式等を伺い、情報を職員間で共有してからケアにあたっている。始めは本人のペースを尊重しながら、困り事や悩み、希望を伺い、「発見シート」を作成して本人の情報を職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約に至るまでの段階で、入所に関する心配事等を伺いながら進め安心してご契約できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの段階で、現在のお困り事などを伺い、サービス実施までの期間のアドバイス等を行っている。入所時には必要なケアを想定して受け入れの準備をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや掃除など家事を職員とやったり、職員が教わりながら行ったりしている。必ず「ありがとう」などお礼を伝えるようにし、共に支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣替えや必要な物品の購入をご家族にお願いしたり、受診やケアの課題上の悩みなどをご家族とも相談し、職員と家族が同じ立場でいられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などの機会づくりを進めている。 ラインのビデオ通話を活用したWEB面会を導入した。	感染症により家族等の面会禁止となっているため、ウェブでの面会ができるように配慮している。馴染みの方が面会にきたらお茶を出し、居心地よく過ごしてもらるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良いご利用者同士を隣の席にしたり、職員が間に入って話をつないだりしている。自然とご利用者どうしのコミュニケーションが生まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった場合などに、これまでの情報を提供したり、アドバイスをしたり出来る支援をするよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発言に耳を傾け、本人の思いを汲み取り、支援につなげている。把握した希望やケース記録等に記録し、職員で共有している。 買い物や一時帰宅なども実現に取り組んでいる。	利用者との日々の会話や関わりで希望や意向を把握しているほか、表出困難な利用者とは、態度や表情から汲み取り職員間で相談しながら把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族にセンター方式に記入頂いたり、面会時等に元気な頃の話をつたりしている。それらの情報から、本人により深く話をきいたりして記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を詳細に記録し、状態の把握に努めている。 ご利用者の出来たこと、喜びの場面などは特に記録して、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議等で、日々の記録や職員の気づきから、意見や課題を出し合い、日々のケアや介護計画に反映している。	家族等や利用者の意向を基に、医療関係者の意見も取り入れて介護計画を作成している。半年ごとにモニタリングと見直しを行っている。利用者の状況に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践の様子やそれに関わる気づきなどもケース記録に記録し、次回の検討につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況やご利用者の状況に合わせて、自宅までの送迎や受診の支援方法を変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	退所希望のご利用者に包括支援センター等に相談のついでに頂いている。 幼稚園との交流会やボランティアを活用して、日常と違う楽しみが持てるよう工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族にご了解を得た上で入所時に近隣の診療所に主治医を移して頂き、定期的な受診を施設で支援している。重度化した場合には往診の出来る診療所に主治医を変更して頂いている。	協力医療機関の医師は往診はしないので、職員が月1回受診対応を支援している。訪問看護師が週1回の健康管理と24時間の連絡体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	市内の訪問看護ステーションから毎週1回の健康チェックと24時間の連絡体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病気の経過やそれまでの介護の状況など必要な情報の提供に努めている。入院中はご家族や病院の医療SWIに状況を伺ったり、ご家族の要望を伝えたりなど早期の退院に向けて努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	浴槽がまたげなくなり、シャワー浴の対象になったり、ペースト食が必要になったり重度化が進んだ場合には、ご家族の意向を伺いながら、併設の特養ホームへの移動を勧めることになった。	入居時に重度化及び終末期における意向調査書を作成し書いてもらっている。家族等の意向を聴きながら、併設の特別養護老人ホームへの移行か往診医や看護師との連携で事業所での看取りを行うかを決めている。職員は年1回研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調の急変、事故発生時のマニュアルを整備し、また、日頃から目につく場所に手順を掲示している。 施設内研修にてAEDの使用方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的に地元消防署と避難訓練を行って、手順などの定着を図っている。 運営推進会議のメンバーに訓練に参加頂き、ご意見を頂いた。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。訓練後反省点は記録に残しているが、今後の課題を話し合っただけで記録に残すまでには至っていない。災害に備えた備蓄品の一覧表はあるが、日付や数量の記載がない。	避難訓練実施後の反省会時、課題についても話し合い、次回の訓練に活かす事を期待する。また、備蓄品について一覧に食材の賞味期間や数量も明記し管理しやすい環境が整うことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入るときには声をかけたり、トイレの声掛けは耳元で行ったり、羞恥心やプライバシーに配慮している。ケアの前に十分に声をかけるなど尊厳に配慮している。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。人権尊重や守秘義務について規程等を定め、研修も行っている。個人情報に関する同意書を整備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の言葉や行動を待つようにしている。食べたいものや入浴の希望、着る物の希望、お手伝いの依頼など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが、自由時間は思い思いに過ごして頂いている。ご自分で決定出来ない方にはレクや昼寝など、その方に合ったことを、職員から声掛け勧めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を本人と買いに行ったり、ご家族に揃えて頂いたり、本人の嗜好にあった衣類を揃えている。起床時にどの洋服にするか訪ねて気持ちを大事にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来ることに合わせて、下ごしらえや後片付けの食器拭きなど、ご利用者に担当して頂き、参加できるよう支援している。	利用者はじゃがいもの皮むきや大根切りなどの下ごしらえ、下膳、洗い物などできることを手伝っている。誕生日には利用者が希望するケーキやまんじゅうでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養補助食品の利用やゼリーを用いた水分摂取量の確保など、一人ひとり合わせた栄養、水分の摂取に努めている。摂取量は記録し、1日トータルで補えるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	寝る前には必ず実施している。一人ひとりの能力に合わせて、歯ブラシの支援や口腔清拭を用いた支援などを行っている。歯科衛生士さんの定期的な口腔ケアを受けている方もいる。職員も口腔ケアに関するアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり、日中や夜間など排泄パターン合わせておむつの種類を変えたり、トイレ誘導の時間を合わせたりしている。排便は概ねトイレで排泄出来ている。	利用者はできるだけトイレ介助を行っている。自尊心の強い利用者が失禁や汚染した際は、さりげなく利用者の見えるところに紙パンツや衣類を準備しておくよう介助せず着替えてもらい、必要時介助するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に、寒天ゼリーや水分摂取量、ファイバーと下剤を組み合わせ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は15:00～18:00、1日おきに入浴出来るようにしている。 便失禁など急な時には、その都度シャワー浴などしている。	柚子湯や菖蒲湯で季節感を、入浴剤を使用して温泉気分を味わっている。異性の入浴介助を嫌う利用者は同性介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体力に応じて、ベッドで休めるようにしている。室温や布団の厚みなどに気を配って調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルの始めに服薬している薬の情報を挟んで、種類や用法、副作用などについて把握している。変化があれば、主治医に伝え、調整をしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること、出来ないこと、好きなことなどの把握に努め、家事の分担や楽しみごとに役立てている。ご利用者皆に声をかけ、一人ひとりの笑顔を引き出せるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩やドライブなど戸外に出る機会を作れるよう努めている。 一時帰宅の希望や実家を見たいなどの希望をご家族に伝え、実現に努めている。	職員は天気の良い日には、利用者が散歩やドライブなど戸外に出かけられるよう努めている。火曜日と金曜日には、利用者の希望がある時は、買い物に出かけている。年間行事計画は立てていないが、毎月、詳細な行事計画をたてながら外出や行事を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じて、施設で預かったり、自己管理して頂いている。 ご家族と一度に使える金額を取り決めて、その範囲で好きなものを買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を取り次いだり、手紙の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の家具で統一されている。トイレや浴室などわかりやすい表示を工夫している。年中行事の飾りをしたり、花を飾ったりして季節感が出るようしている。会話が主でテレビの音が大きすぎる時は下げたりチューエーションに合わせて調整している。	居間兼食堂には行事の写真や作品が掲示されている。窓も大きくソファもあり、のんびりとくつろげる空間となっている。折り紙で作成した季節に花を掲示し、利用者が作品を眺めながら楽しむことができている。また、窓からは、事業所で作っているお花や作物の成長を見ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた場所にソファを置いて、気分に合わせて場所に居られるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや仏壇など自宅から持ち込んで頂いたり、昔の写真を飾ったりして、できるだけ以前の暮らしが出来るよう支援している。	できるだけ、自宅での生活に近いように、馴染みの物を持ち込んでもらえるようにしている。居室入り口、各自暖簾をかけてドアを開けっ放しにしても部屋の中が廊下から見えないようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに手すりを設置したり、紙/パンツや衣類の場所がわかるように置き方を工夫したり、ソファの向きを変えたり、安全に自立出来るよう、出来る限り工夫している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 指定認知症対応型共同生活介護事業所 虹の家

作成日 令和 2年 7月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練後に挙げられた反省点が、次の訓練に活かし難くなっている。	反省を次の訓練に活かす	・訓練後の会議にて、反省点から見えてきた課題について話し合う。 ・それを記録に残し、次の訓練計画に活かす。	6ヶ月
2	35	備蓄食品のリストに賞味期限と数量が明記されていない。	リストに賞味期限と数量を明記し、管理しやすくする。	・法人の防災委員会に、賞味期限と数量を明記していただけるよう提案する。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。